

## コロナ可を乗り越えて(二三回生)

二〇一八年六月十五日 前回は、この日に一一八名の級友が集まった。そして二年後の再開を約束した。しかし、二〇二〇年から蔓延したコロナが立ちだかった。同年三月の幹事会で議論するも、二〇二一年六月まで延期して様子を見るとしか決められなかった。その後も開催目途は全く立てられなかった。

二〇二二年秋、闘病生活を続けていたN君の訃報が届いた。彼の葬儀で級友からそろそろ集まりたいとの話が出て来た。感染の底を狙って計画すれば、クラス会は可能だと思った。二〇二三年三月、コロナ感染データーを睨みつつF組クラス会を開催した。十三名のクラスメイトが集まった。少なからず介護で感染リスクを拾えない方、病気で参加出来ない方がいた事を考えると盛会だったと思う。

この実績を踏まえ各クラス幹事と議論を進めたが、捗々しい進展は無かった。高齢化に伴う仲間の訃報、重い病気の話を聞かされた時にこのまま同期会を開催出来なくなるのではないかと焦燥

感が募るばかりであった。

閉塞した状況ではあったが、ゴルフ同好会などの集まりは続けられていた。その席で同期会開催について意見を聞くも種々事情があり賛否両論であった。その後、E組幹事の鈴木さんより同期会開催のご提案を頂いた。共同代表幹事の松野さんと二人で議論するも、彼はクラスターを恐れて開催に慎重であった。ただ、屋外開催なら感染リスクが低く可能であるとの結論をえた。これを踏まえてクラス幹事会を招聘し議論した。結果、屋外開催は障害が多過ぎて見送られた。しかし、換気の良い屋内会場を確保するとの条件で開催が決まった。

日程調整、会場選び、名簿整備などの実務を進め、二〇二三年十月二十九日に新宿のリストランテベニーレベニーレで一〇一名の同期が賑やかに集まることのできた。ほぼ半世紀ぶりに会えた懐かしい友もいた。

最後になるが、開催に向けてご尽力頂いたE組鈴木さんH組斉藤さん始め各クラス幹事の皆さん並びに参加頂いた同期の皆さんに深く謝意を示したい。

(二三回 天田 守久)